



学生に聞く、北翔の心理のこと。

人の数だけこころがある

飯田：まず最初に聞いてみたいのですが、大学に入学する前、心理学を学んでみたいと思うきっかけになった、人のこころに関する「どうして？」はありますか？

大内：はい。同じような環境で暮らしていても、明るくて活発な子がいたり、もの静かな子がいたり、本当にいろんな性格の子がいますよね。この違いというのは、どこから来るのかなと思ったのが、心理学に興味をもったきっかけです。なかには学校に来られないような子もいますが、そういう子たちに学校が好きになってもらえたらしいなと思ったんです。

心理カウンセリング学科のよいところは？

飯田：そのような思いを抱いて心理カウンセリング学科に入学されたんですね。では单刀直入にお聞きします。ずばり、この学科のよいところを教えてください！

心理学と福祉を両方学べるところです！

大内：心理学と福祉を両方学べるところだと思います。大学に入る前は、心理学と福祉は別物だと思っていました。心理学は、人のこころを理解することであり、カウンセリングのようにこころに寄り添って援助することだと思っていました。福祉は、困っている人を助けることで、児童養護施設に入っている子どもたちがきちんと衣食住満たされるように幸せに暮らすことや、高齢者の方が暮らしやすくなるよう心身両面を支援することだと思っていました。でも、大学で学びを深めていくうちに、「対人援助」という視点で考えると、心理学と福祉はつながっていることがわかりました。

心理学と福祉はつながっている！？

飯田：もう少しくわしく教えてほしいです。心理学と福祉はつながっているとはどういうことでしょう？

大内：まず、困っている人に対して、心理学の理論等を用いて、その人が自分の力で困りごとを解決していくことを目指す考え方がありますね。でも、困っている人がいくら頑張っても社会環境が変わらないと、その人の困りごとがなくなる場合ってありますよね？たとえば、子どもの貧困の問題って、その子の話をいくら聴いても、貧困自体が解決するわけではない。やっぱり、生活保護の制度の改善や奨学金の返済を所得連動型にするなど、そういう社会環境を調整していく福祉の視点も大切ですよね？心理学の視点と福祉の視点は両方大切で、それぞれが密接につながっていると思うのです。

心理学と福祉は人間を豊かにする学問

大内：純粋に、心理学や福祉って、私たちを豊かにしてくれる学問だと思います。人間のせつなさやはかなさ、そして希望がちりばめられているので、講義を受けてそれらを感じてほしいです。

先生方は専門家であり実務家

大内：あと先生方は、いわゆる現場でお仕事をされてきた、そして今もされている専門家で、先生方のお話は面白く、考えさせられます。

安心して相談できる雰囲気が学科にある！

大内：あと、学科の雰囲気が良いところです。普通、大学って、先生や職員の方にあまり質問しづらいというか、そう思っていたのです。でも、気さくで、学生と教職員の距離が近く、安心できます。

心理学や福祉の学びによって成長できた！

大内：最後に、生きていれば、正直つらいこともありますですが、心理学や福祉を学んできたから、そんな自分を受け止め、明日から頑張ろうって私は思います。心理学や福祉の学びによって、私は成長できました！



あなたの「どうして？」に、応える学科。

COCORO

School of Education Culture
Department of Psychology and Counseling Vol.01



どうしてひとは、みんな違うんだろう。
どうしてひとは、ひとを好きになるんだろう。

「どうして？」 からはじまる、 幸せづくりの 学び。

あなたはこれまで、星の数ほどの
「どうして？」を
思い浮かべてきたことでしょう。

どうしてひとは、
悩んだり、怒ったりするのか。
どうしてひとは、
うなだれたり、ふさごこんでしまうのか。
それでいて、どうしてひとは、
他の人をはげましたり、
なぐさめたりできるのか。

そしてこうも思います。
どうすれば、ひとと仲良くできるのか。
どうすれば、この想いをうまく伝えること
ができるのだろう。

心理学や精神保健福祉学の学びは、
これらの答えのヒントを与えてくれます。
そしてその学びは、誰かのために活かすこ
とができるのです。

「こころ」について学び、幸せをつくる。
心理カウンセリング学科で、ともに学んで
みませんか。



専任教員紹介 私たちがサポートします。



小坂 守孝 学科長・教授 ①

心理的問題を「個と環境との適合」の視点で捉え、環境側も含めたシステムとして捉えることで解決を見いだそうとする「コミュニティ心理学」の観点から広く心理的支援に関する研究・実践を行っています。

受験生へのメッセージ

心理学は私たちの心を、生活を、より豊かなものにしてくれると信じています。人間関係がうまくいくコツは「相手の身になって考える」ことであり、心理学にはそのためのヒントがたくさん隠されています。

今井 博康 教授 ②

精神保健福祉士として20余年病院に勤務しました。患者さんやご家族の相談に応じつつ、精神保健の普及啓発に取り組みました。現在、精神医療審査会委員のほか、スクールソーシャルワーカーとして実践を行っています。

受験生へのメッセージ

人間は必ず誰かの役に立ちます。あなたの自身の未知の可能性を見つけ出しています。人間関係がうまくいくコツは「相手の身になって考える」ことです。他者を知り、他者に学びながら自分に気づく。本学科にはそんな機会が数多く用意されています。

風間 雅江 教授 ③

医療、福祉、保健などの現場で、病や障がい、深い悩みをもつ方々とのかかわりを通して多くの学ばせていただきました。臨床心理学、犯罪心理学、家族心理学などから、子どもと家族の幸せについて研究していくことを一生のライフワークとしています。

受験生へのメッセージ

心理学の学びを通して得る知識と経験は、人間への理解を深め、あなた自身とあなたのまわりの人々の幸せと生きる力に繋がるものです。目に見えない心の世界と一緒に探検してみませんか？

飯田 昭人 准教授 ④

不登校、非行、発達障害、子どもの自殺や貧困問題などに関心を寄せています。臨床心理学、犯罪心理学、家族心理学などから、子どもと家族の幸せについて研究していくことを一生のライフワークとしています。

受験生へのメッセージ

心理学の理論などを学ぶことと、それを用いる私たち自身の人間性を磨くことの両方を大切にして下さい。警察心理職やスクールカウンセラーなど経験している私と一緒に、心理学の学びを深めていきましょう！

澤 聰一 准教授 ⑤

北海道の大学を出てから、九州で学校や児童福祉施設、病院などの現場で主に思春期・青年期の方たちと関わってきました。心の現実と客観的な現実の両方に目を向け、皆さんと共に学んでいきたいと思います。

受験生へのメッセージ

皆さんが生きている青年期は、たくさんの出会いを経験できる大切な時期です。人や知識、体験との出会いはどれも貴重で、無駄なことはそうそうありません。大学でもたくさんのお出会いを体験していきましょう。

新川 貴紀 准教授 ⑥

気がつけば15年以上も1週間に1日はどこかの学校で相談活動を続けていました。現在もスクールカウンセラーとして大学の外でも子どもたちの発達を応援しています。そして誠実であろうと努力しています。

受験生へのメッセージ

子どもや家族、学校の先生に喜んでもらえることは嬉しいことです。時には感謝されるかもしれません。しかし良い評価をされることが目的ではありません。みなさんはこの意味がわかる日が必ずやってきます。

橋本 菊次郎 准教授 ⑦

精神保健福祉士の受験資格取得に必要な科目を担当しています。主に精神障害者の方のリハビリテーションを専門とし、最近は障害者施設等のコンサルテーションや地域福祉などにも関心を寄せています。

受験生へのメッセージ

私は精神保健福祉士として多くの精神障害の方とお会いすることができます。外から見ると支援する側だけですが、実は自分が助けられたような気がしてなりません。そんな、経験が待っているはずです。

寺田 香 講師 ⑧

精神保健福祉士や社会福祉士の養成に関わる科目を担当しています。また、実習プログラムやソーシャルワーク倫理など、臨床現場で必要とされる項目を、現任のソーシャルワーカーと一緒に研究しています。

受験生へのメッセージ

対人支援職として求められるのは、どのようなことだと思いますか？他者を支援する専門職として、深く関わることのできる自己を育てるため、大学4年間でしっかりと足腰を鍛えましょう。